

アセスメント能力を高めるトレーニング

立教大学 松山 真

I. 北里方式グループスーパービジョン

北里大学東病院時代に、グループスーパービジョン（ピア）をする中で、『実践能力を高める』方法を考案して長年教育として行っていました。その後、立教大学卒業生 MSW との勉強会でもスーパービジョンを行っていましたが、その中で改良を重ねてきました。

◎よくなされている事例検討は

- ・事例提供者を決め、事例提供者が担当した事例の全体をまとめる
- ・まとめる際に、「家族状況」「経済的状況」「身体的状況」「主訴」などフェイスシート項目に沿った内容をまとめる
- ・そのあとに、「アセスメント」「プラン」「援助経過」をまとめる
- ・そして、援助全体を振り返り、援助が適切であったか、何か問題が無かったかを検討している。

◎この方式の事例検討では、次のような問題点が見受けられる

- 1) 事例提出者の準備が大変、まな板に乗せられる感覚
- 2) そもそも上司や事例検討者たちに認められたいことから、困難例を解決した事例を提出しがち
- 3) 事例提出者が選択し、まとめた情報のみでアセスメントしなければならないため、分析能力は身に付くとしても、担当ケースに対してアセスメントしプランを立てていく能力について養われるとは思えない。
- 4) ケースをまとめる際に、事例提出者は（無意識的に）情報を取捨選択しているため、（ある程度）結論は事例提出者に誘導されてる
- 5) 事例提供者が収集しなかった情報でも重要な情報があったかもしれない、逆に問題解決に必要な情報もある
- 6) 問題を予測しながら情報収集し、アセスメントするというプロセスを学ぶことが出来ない。
- 7) 事例検討会の最後に、年長者あるいは上司が分析を述べ（正しいかどうかは別として）、それで納得してしまいがち

◎新しい事例検討の方法

『事例検討を、実践能力が身に付くため』に行うためには、実践の流れに即して、事例検討者全員の参加度が高い方法が良いと考え、以下のような手順

- 1) 事例提供者の準備は、「病名・症状の状態」「家族構成」「依頼（介入）理由」のみ提示する
- 2) それらの情報から、問題を予想・予測し、それを確認するために必要な情報（質問）を、全員が各自できる限り多く書き出す
- 3) 書き出す情報は「ADL」「家族関係」のように大きな項目ではなく、「字は書けるか」「妻との関係はどうか」など出来るだけ細かく書く
- 4) 情報を書き出す際はブレインストーミングの原則で。

★原則は、「自由奔放」「便乗発展」「質より量」「批判厳禁」の4つ

- 5) 質問は、的を得ているというより、量が多ければ良い。
- 6) 参加者が順に質問し、事例提供者はその質問に答える。分からないことは分からないと言う。
- 7) 質問が無くなるまで質問を繰り返し、事例の全体像を全員が把握する。
- 8) 把握された事例状況から問題状況のアセスメントをし、プランを立てていく。

→ この事例検討を5/6回重ねて行っているうちに、徐々に質の良い質問が出来るようになる。

◎この事例検討方式の良いところ

- ・事例提供者は、事例の概要をまとめる必要がない。
- ・全員が援助プロセスを辿る（問題を予測し情報を追加していく作業を繰り返す）ことが出来る。参加度が高い
- ・ソーシャルワーカーの援助方法を検証するのではなく、事例の援助を学ぶ事ができる
- ・経験や年齢の差に左右されない
- ・他のメンバーと、予想する問題・アセスメント・プランについて比較することが可能

II. アセスメント能力を高めるトレーニング

北里方式グループスーパービジョンの前半部分を改良して、アセスメント能力を高めるためのトレーニングとして相談援助演習や卒業生勉強会で実施している。

基本的考え方

アセスメント能力・援助技術・社会資源の知識などを向上させるのであれば、援助過程を参加者全員が自分で辿る方法が良い。この方式であれば全員の参加度は高く、全員が問題解決能力を身に付けることができる

手順

- 1) 『新しい事例検討の方法』の1)～5)までは同じ
- 2) 参加者が書き出した必要な情報を分類する
 - (ア) 分類A 人と環境によって分けた6種類のどれに該当するか
 - (イ) 分類B 去・現在・未来のどれに該当するか
- 3) 分類A・Bについて、他の参加者の結果（レーダーチャートで表示）と比較する
- 4) 分類A・Bについて、自身が関心を持ちやすい／持ちにくい情報の種類について知る
- 5) 自身の情報の偏りを知る

このトレーニングを行うことで

- 1) 人や状況の見方についての多面的にみる事が出来るようになる
- 2) 発想力を高める・広げる
- 3) 少ない情報から問題を予測できる能力を養う事が出来る（アセスメント能力）
- 4) 援助に必要な情報を特定することができる（アセスメントと密接に関係している）
- 5) 問題を予測する力の精度を上げることができる。Maybe→perhaps→likely→Probably